



普通高等教育“十一五”国家级规划教材  
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

# 日语综合教程

## 第五册

陆静华 编著

**前瞻性与创新性并重：**  
符合21世纪日语人才培养需要，引领中国日语教学潮流。

**代表性与权威性兼顾：**  
全国20余所高校参与编写，日语界近百位专家精心奉献。

**系统性与呼应性结合：**  
涵盖高校日语专业各类课程，形成相互呼应的有机整体。

上海外语教育出版社  
SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS





普通高等教育“十一五”国家级规划教材  
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

# 日语综合教程

## 第五册

陆静华 编著



图书在版编目(CIP)数据

日语综合教程. 第5册 / 陆静华编著.

—上海: 上海外语教育出版社, 2011 (2012重印)

(新世纪高等学校日语专业本科生系列教材)

ISBN 978-7-5446-2451-0

I. ①日… II. ①陆… III. ①日语—高等学校—教材 IV. ①H36

中国版本图书馆CIP数据核字(2011)第155156号

出版发行: **上海外语教育出版社**

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 江龙娣

---

印 刷: 上海信老印刷厂

开 本: 787×1092 1/16 印张 24.25 字数 556千字

版 次: 2011年8月第1版 2012年6月第2次印刷

印 数: 10 000 册

---

书 号: ISBN 978-7-5446-2451-0 / H · 1139

定 价: 46.00 元 (附光盘)

本版图书如有印装质量问题,可向本社调换

## 新世纪高等学校日语专业本科生系列教材编委会

### 总主编：

谭晶华

### 编委：(以姓氏笔画为序)

王 勇	浙江工商大学
王健宜	南开大学
叶 琳	南京大学
皮细庚	上海外国语大学
许慈惠	上海外国语大学
纪太平	厦门大学
杨诒人	广东外语外贸大学
严安生	北京外国语大学
吴 侃	同济大学
吴大纲	上海外国语大学
陈 岩	大连外国语学院
张 威	清华大学
陆留弟	华东师范大学
庞志春	复旦大学
胡振平	解放军外国语学院
修 刚	天津外国语学院
洪栖川	东北师范大学
高 宁	华东师范大学
高文汉	山东大学
宿久高	吉林大学
谭晶华	上海外国语大学

# 总序

21世纪是一个国际化的高科技时代，也是一个由工业社会进一步向信息社会转达化的时代。科学技术的高速发展、新兴交叉学科的涌现、人文文化与科学技术间的相互渗透和融合、社会的信息化以及知识、信息传播技术的日新月异加强了世界各国文化的交流、碰撞与合作。要想在激烈的世界竞争中立于不败之地，就要占领人才培养的制高点，培养出世界一流的高素质、高水平人才。

由于社会对外语人才的需求已呈多元化趋势，以往那种单一外语专业的基础技能型人才受到挑战。今后我们仍然需要培养《源氏物语》的专门研究家，但是高校外语专业的教学必须从过去的“经院式”人才培养模式向宽口径、应用性、复合型人才培养模式转化。社会要的不光是懂外语的毕业生，还需要思维敏捷、心理健康、知识广博、综合能力强的精通外语的专门人才。

我国的外语教学界已充分认识到，对国家建设发展急需的外语专业人才加大培养力度，提高其能力的素质是一项迫在眉睫的任务。随着我国日语专业教学点设置的不断增加和招生规模的逐年扩大，日语专业本科生的教学改革、学科建设及教材出版亦取得很大的成绩，各地先后出版了一批在全国有影响的优秀教材。正因为社会对日语人才的培养提出了更高的标准，同时对日语学科的建设也提出了新的要求，因此，日语本科生教材的编写和出版也应该顺应潮流，开拓创新。

我国外语教材和图书出版的基地、领头羊之一的上海外语教育出版社(外教社)以高度的责任感和高瞻远瞩的视野，在充分调研的基础上，抓住机遇，于2003年8月邀请了全国主要外语院校和教育部重点综合大学日语专业的近20位专家在上海召开了“全国高等学校日语专业本科生系列教材编写委员会会议。”代表们完全认同编写“新世纪高等学校日语专业本科生系列教材”的必要性、可行性及紧迫性，并对编写立意、教材构建、编写审校程序提出了许多积极、中肯的建议和要求。之后，外教社又多次召开全国及上海地区专家学者会议，分头撰写编写大纲，确定教材类别、项目，讨论审核样稿。经过两年多的努力，终于迎来了第一批书稿的付梓。

本套教材共分语言知识、语言技能、语言学与文学、语言学与文化、语言学与翻译(中日对译)、人文科学、经济贸易、测试与教学法等若干板块，可以说几乎涵盖了当前我国日语专业所开设的全部课程。编写内容根据因材施教的原则，

深入浅出，反映各个学科领域的最新研究成果；编写体例采用国家最新有关标准，力求科学、严谨；编写思想贯彻了在帮助学生打下扎实的语言基本功的基础上，培养学生分析和解决问题能力的原则，全面提高学生的人文、科学素养，养成健康向上的人生观，成为合格的外语专门人才。

本套教材编写委员会云集了我国日语界学者专家，其中不少是高等学校外语专业指导委员会的委员。每一种教材均由编写委员会的专家们仔细审阅后确定，有的是从数种候选教材中遴选，总体上代表了中国日语教材学发展的方向 and 水平。我们相信，外教社这套“新世纪高等学校日语专业本科生系列教材”的编写和出版，一定会促进和提高我国日语专业本科生教学质量的稳步提高，其前瞻性、先进性和创新性也将为日语教材的编写拓展更为广阔的视野。

谭晶华

上海外国语大学常务副校长

# 前 言

日语专业教学大纲中指出：教材是师生在教学活动中的依据，选用或编写合适的教材是搞好教学的保证。教材的题材要广泛，并且比例适当，要注重实践性，适当编写包括日本社会、文化、风俗习惯以及科普常识方面的文章。语言要规范、生动、丰富。文章体裁要多样化，掌握好教材的难度。

日语专业高年级教材在过去 20 多年间出过少量的几套，由于当时日语专业高年级教学大纲尚未制定，现在看来，已出的教材与教学大纲的规定尚有一些距离，也不很符合教学大纲的规定。近年来，随着我国高等教育走向大众化，设置日语本科专业的学校越来越多，各校都急切地期待着高质量的日语专业高年级教材更早更多地问世，以备各大学择优使用。

本套日语专业高年级教材作为本科高年级综合日语课的主干教材，力图贯彻教学大纲规定的要求，编出符合目前日语专业现状的适用教材，既注重语言知识的传授、语言技能的训练，又顾及日本社会、文化的介绍和理解。本套教材的框架设计、布局结构将有助于提高学生的思维创造和分析鉴赏能力。

本套教材经申报，已批准为教育部“十五”重点教材建设项目，谭晶华教授为总主编，第五册由陆静华教授编写，第六册由陈小芬教授编写，第七册由季林根教授编写，第八册由皮细庚教授编写，编成后的油印教材均经过两轮以上的使用，并广泛听取了中、外教师的意见，几经修改而成。

愿本套教材的推出为中国日语专业本科教育更上一层楼贡献绵薄之力，相信我国的日语本科专业建设一定会有更蓬勃的发展。

总主编

2006 年 6 月

## 编者的话

《日语综合教程》第五册教材的编写工作启动于2002年，先后经过两轮试用和反复修改，历时近4年时间，终于和广大读者见面了。编者衷心希望本教材能获得广大读者的喜爱。

本教材为高等学校日语专业高年级阶段精读课教材，供三年级上学期使用，亦可供具有一定日语基础的自学者使用。

参照《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》的要求，充分考虑到与基础阶段教材的衔接和过渡，选材时编者充分注意到文章的难易程度和题材的多样化，尽可能选择一些可读性强，语言表达规范，遣词造句丰富优美的文章。文章的内容涉及日本文化、文学、社会、科学、语言学等不同领域，力求使学生通过本教材的学习，在原有的基础上得到进一步提高，并对日本的社会风土人情有更多的了解。

本教材由小说、随笔、论说文等不同体裁的12篇文章组成。每课分别设有“课文、注释、单词、语句学习、近义词学习、练习、文学·语言小知识和阅读”八个部分。注释、单词、语句学习、近义词学习栏目主要用来学习该课文中出现的一些新的，包括一些在基础阶段虽有涉及，但接触不深，讲解尚不够全面的语法、词汇、句型、习惯表达及各种日语知识。通过这些内容的学习，使学生的日语综合理解和运用能力得到进一步巩固和提高。

本教材新设了“近义词学习”栏目，主要介绍一些课文中出现的意思相近用法不同的词汇，目的在于通过这些内容的学习，加深学生对这些词汇的感性认识，为在今后的学习工作中真正掌握和正确使用这些近义词打下良好的基础。与此对应编者也编写了该项目的配套习题，旨在通过反复练习，达到加深理解，增强语感的目的。在这里我们并不强求学生立即做出正确的解答，增强语感是练习的目的。因为没有感性知识的积累，很难真正获得理性知识。

各课的练习部分由10个项目组成，大致可以分为两大类。一类是围绕课文编写的练习，希望起到温故知新的作用；另一类则是以提高日语综合能力为目的而编写的练习题。练习中设有口头问答题，旨在检查学生对课文内容的理解



情况。同时也为学生提供了口语综合表达的机会。编者希望教师在教学过程中能够重视口语练习，教与学双方如能很好地配合，相信学生将会在高年级阶段继续获得良好的口语训练。“文学·语言小知识”和“阅读”栏目的设立，则是为了拓宽学生的知识面，增加阅读量。这可以丰富学生的词汇量，提高阅读同类文章的能力。

本教材选用了辻邦生、上笙一郎、西江雅之、梅原猛、森本哲郎、渡边武信、上田笃、安房直子、椎名诚、本川达雄、白井健策、辰浓和男、大悟法利雄、竹西宽子、三浦哲郎、铃木修次、井上ひさし、井伏鱒二、芥川龙之介、高田宏、山本学治、谷川俊太郎、渡边淳一等各位先生及女士的作品，大悟法静子等不少作者家属也欣然允诺使用相关作品。

本教材在编写过程中主要参考了原上海外国语大学陈生保教授主编的《日语》第5~6册和日本的各中小学国语教科书及其他文献资料，还先后得到上海外国语大学日本籍专家池田滋先生、大西进先生、永岛靖夫先生以及本院周平教授等的大力支持，他们分别对本教材进行过仔细的审阅。编者还曾得到许多日本友人的相助。上海外国语大学的有关领导和日本文化经济学院的领导对本教材的编写工作给予了关心和支持；日语三年级教学小组的戴宝玉老师、许慈惠老师、陈小芬老师和周星老师也在教材的试用过程中提出了许多中肯的意见和宝贵的建议。

本教材还附有课文的录音，录音特请吉田清子女士录制。

在此谨向以上各位给予过帮助的先生及女士，一并表示由衷的感谢。

本教材在编写过程中，编者尽可能从教学第一线的角度进行思考和编写，但是由于水平有限和时间仓促，不免存在错误和不足之处，恳请广大读者批评指正。

最后，向支持本教材编写工作的上海外语教育出版社和责任编辑江龙娣女士表示衷心的感谢。

编者

2006年6月

# 目次

## 第1課

### 海の中に母がいる ..... 1

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 言葉の学習
  - 一、～とすると
  - 二、～といっても
  - 三、心ゆくまで
  - 四、何としても
  - 五、～だけでも
  - 六、気が遠くなる
  - 七、さながら
  - 八、～心地
  - 九、～み
  - 十、～てやまない
- ◆ 類語の学習
  - 一、しゃがむ・蹲る・屈む
  - 二、寝そべる・寝転がる・寝転ぶ
- ◆ 練習
  - ◆ 文学・語学の豆知識 随筆とは
  - ◆ 読み物 小さな旅から大きな旅へ

## 第2課

### 田中正造 ..... 29

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 言葉の学習
  - 一、～放題
  - 二、かたわら
  - 三、～つくす
  - 四、～に終わる
  - 五、目も当てられぬ
  - 六、胸を撫で下ろす
  - 七、ひた＋動詞連用形＋に＋同一動詞
  - 八、～とする

- 九、～あまり
- 十、一つ～ない

◆ 類語の学習

- 一、まみれ・だらけ
- 二、たまたま・偶然

◆ 練習

- ◆ 文学・語学の豆知識 伝記とは
- ◆ 読み物 伝え合い

第 3 課

日常の思想 ..... 62

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 言葉の学習

- 一、～から
- 二、～以外の何物でもない
- 三、～を余儀なくされる（させる）
- 四、もとより
- 五、ゆえ
- 六、～と並んで
- 七、のみ
- 八、すら
- 九、はたして
- 十、～としても

◆ 類語の学習

- 一、もはや・すでに
- 二、再び・再度

◆ 練習

- ◆ 文学・語学の豆知識 文章表現の技巧
- ◆ 読み物 二十一世紀のおそろしさ

第 4 課

庭 ..... 87

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 言葉の学習

- 一、～というものは
- 二、～極まりない
- 三、思いを馳せる
- 四、思うに
- 五、～に足る

- 六、～ことで
- 七、～にせよ
- 八、～わけが（は）ない
- 九、～（の）ならともかく
- 十、いかに～（う）ようと

◆ 類語の学習

- 一、さりげなく・それとなく
- 二、ほの暗い・薄暗い・暗い

◆ 練習

- ◆ 文学・語学の豆知識 符号のいろいろな使い方
- ◆ 読み物 縁

第 5 課

木の葉の魚 ..... 116

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 言葉の学習

- 一、～かげん
- 二、～といたら
- 三、～一つ
- 四、願ったりかなったり
- 五、同一語(文節)の重ね表現
- 六、やたらに(と)
- 七、～たて
- 八、～につき
- 九、まだしも
- 十、それからというもの

◆ 類語の学習

- 一、養う・育てる
- 二、どっしり・ずっしり

◆ 練習

- ◆ 文学・語学の豆知識 童話について
- ◆ 読み物 ふろ場の散髪

第 6 課

なぜ車輪動物がないのか ..... 149

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 言葉の学習

- 一、～であれ～であれ
- 二、心を躍らせる

- 三、余計
- 四、～分には
- 五、～ときた日には
- 六、～に目を向ける
- 七、～ない（ぬ）ともかぎらない
- 八、ものではない
- 九、～からみれば
- 十、～に越したことはない
- ◆ 類語の学習
  - 一、ひとまず・差し当たり・とりあえず
  - 二、たちまち・たちどころに
- ◆ 練習
- ◆ 文学・語学の豆知識 説明文とは
- ◆ 読み物 時計はなぜ右回りなのか

第 7 課

紅山桜 ..... 179

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 言葉の学習
  - 一、調子に乗る
  - 二、～じみる
  - 三、～ぞい
  - 四、腰を据える
  - 五、しょせん
  - 六、肩を落とす
  - 七、たまる（もの）か
  - 八、一十助数詞十一十助数詞
  - 九、体を張る
  - 十、～なしの
- ◆ 類語の学習
  - 一、とりわけ・特に・殊に
  - 二、もどかしい・歯がゆい
- ◆ 練習
- ◆ 文学・語学の豆知識 春と秋の七草
- ◆ 読み物 湯ヶ島の桜

第 8 課

蘭 ..... 209

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉



- ◆ 言葉の学習
  - 一、～かかる
  - 二、～がけ(掛け)
  - 三、耳に立つ
  - 四、疑問詞+動詞過去形+もの(だろう)か
  - 五、見るからに
  - 六、～てのこと
  - 七、いやおうなしに
  - 八、～からいいようなものの
  - 九、心持ち
  - 十、身を任せる
- ◆ 類語の学習
  - 一、しきりに・ひとしきり・ひっきりなし
  - 二、ひっそり・こっそり・そっと
- ◆ 練習
  - ◆ 文学・語学の豆知識 小説とは
  - ◆ 読み物 とんかつ

## 第9課

### 「的」の文化..... 241

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 言葉の学習
  - 一、～的
  - 二、おのずから
  - 三、～ような～ような
  - 四、あえて
  - 五、あたかも
  - 六、どうしても
  - 七、～に見る
  - 八、ともあれ
  - 九、～からすれば
- ◆ 類語の学習
  - 一、あえて・しいて
  - 二、馴染む・慣れる
- ◆ 練習
  - ◆ 文学・語学の豆知識 「エッセイ」とは
  - ◆ 読み物 日本語

## 第10課

### 屋根の上のサワン..... 269

- ◆ 本文

- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 言葉の学習
  - 一、さもなければ
  - 二、～でもって
  - 三、～でいる
  - 四、～てからでなくては～ない
  - 五、どうやら
  - 六、時として (は)
  - 七、数字+もの+名詞
  - 八、よほど
  - 九、～ようによって (は)
- ◆ 類語の学習
  - 一、置き去り・放置する・ほったらかす
  - 二、けたたましい・甲高い・声高だ
- ◆ 練習
- ◆ 文学・語学の豆知識 主要部首の読み方
- ◆ 読み物 蜜柑

第11課

島で見たことから ..... 300

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 言葉の学習
  - 一、～つき
  - 二、～づたい
  - 三、ハラハラ (と)
  - 四、～こと
  - 五、～となると
  - 六、～でしかない
  - 七、～と見える
  - 八、～という
  - 九、早計
  - 十、すっぽり (と)
- ◆ 類語の学習
  - 一、せがむ・ねだる・せびる
  - 二、すれすれ・ぎりぎり
- ◆ 練習
- ◆ 文学・語学の豆知識 伊呂波歌
- ◆ 読み物 森の恵み

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 言葉の学習
  - 一、かといって
  - 二、とんと
  - 三、働く
  - 四、やりきれない
  - 五、～きまって
  - 六、辛うじて
  - 七、～がかかる
  - 八、思い出したように
  - 九、～といえども
  - 十、～てよこす
- ◆ 類語の学習
  - 一、かすか・ほのか
  - 二、せっかく・わざわざ
- ◆ 練習
- ◆ 文学・語学の豆知識 時候のあいさつ用語
- ◆ 読み物 残酷の美しさ

## 海の中に母がいる

## 本文

■ 辻 邦生

山好きの血が父方から流れているとすると、海好きは間違いなく母から伝わっている。終戦間もなく、不忍池のほとりを通りかかると、池端に、母がしゃがみこんで池の面をじっと見ている。声をかけると、母は照れたような顔で立ち上り「ちょっと海が見たくなって」と言って笑った。

当時、東大のそばに住んでいたのも、買物のついでに不忍池で休んでいたの

だろうが、そのときの母の言葉が妙に忘れられない。小学六年の夏、母の故郷の鹿児島県の辺鄙な漁村でひと月暮らしたことがある。母の父は背の高い、こわい人で、そこでずっと医者をしていた。家から五十メートルほどで海に出る。桜島や開聞岳の見える美しい浜辺だった。母が海を見たいと言ったのは、その故郷の浜辺のことを考えていたのかもしれない。今なら二時間もかからない鹿児島は、その頃は夜行や連絡船で二日かかる遠い国だった。望郷の思いに駆られても当然だったような気がする。

海好きといっても、心ゆくまで海と親しんだのはその夏だけで、あとは学校から海水浴にゆく程度だった。おそらく海と切りはなされた状態がかえって海への憧れを掻き立てたのだろう。大学を出る年、何としても海に関係する職業につきたいと思い、日本郵船に入社できないか聞きに行った。対応に出た人事課長は「うちも、ほかの会社と同じですよ。文学部出身では、どうもね」と気の毒がってくれた。船会社だから、全員が船に乗れるものと勘違いしていたわけだ。

それでも、船に乗って、海を思いのたけ味わいたいという気持ちは、いつ



不忍池